「置かれた場所で愛するとは」
「自分がしてもらいたいことを人にもする」

Ⅰヨハネ3:11-24
マタイ7:12

はじめに

私たちには自分が一生懸命やっているがゆえに他の人に迷惑をかけていたり、不快な思いにさせてしまっていることがないでしょうか？頑張っているのに何故か人間関係も上手くいかない…。そんなことはないでしょうか？もしあるのなら、自分の見えている以外のところが見えていないと言う事があるのかもしれません。

今日の聖書箇所である第一ヨハネは、使徒ヨハネが老人になった時に記された書です。当時、偽予言者が沢山現れて、イエス様に反対する教えを広めていました。そのため、多くの人が正しい教えから離れてしまったとき、惑わされた人を立ち戻らせるために記されたのが第一ヨハネです。またこの書には教えだけでなく、どの様に生きたら良いかと言う生き方も記されています。

この書には何度も「たがいに愛し合いなさい」と記されています。ところでたがいに愛し合うとはどの様な事なのでしょうか？
18 節には「言葉は口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか」と記されています。神を愛する愛は神のために行う私たちの行いの中に現されます。

だから、神の子どもとして生活（愛の実践）ができる！！

私たちが神様から受け取った事
1 自分が死から命に移ったことを知っている。
イエス様は私たちが自分がやりたいと思っても出来ない原因である罪の為に身代わりになって死んでくださいました。そして死んだだけでなく三日目によみがえられました。
2 キリストは私達の為にご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛が分かったのです。
Passion という映画を見るとイエス様がどれだけ私たちを愛してくださったかという事を知る事が出来ます。
3 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。

今私たちには頼る事が出来る方がおられます。もう一人ではありません。だから実践していくことが出来るのです。
神様がともにおられるからもう一人ではありません。

神様を第一にする

私たちが一人ではないという事は、私たちにはいつも神様が一緒にいてくださるということです。だから、私たちが神様を第一にするとき、決して一人で生きる事はありません。
「そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」（マタイ 22 章 37－39 節）
隣人を自分自身の様に愛するという事は黄金律とも言われており、マタイはそれを記しています。
「それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、他の人にもその様にしなさい。これが律法であり予言者です。」（マタイ 7 章 12 節）

ただ、自分がしてほしいことを人にしたからといって、喜ばれる事ばかりではないかも知れません。どの様な振る舞いがあれば愛が伝わるのでしょうか？

芳栄先生の証

以前勤めていた職場に 16 歳くらい年上の素敵な女性がいました。その方を親しみをこめて「お姉ちゃん」と言っています。このお姉ちゃんはクリスチャンでした。そしてこの人を通して教会に行くようになりました。

私たちは誰かがきっかけとなって教会に行くようになったと思います。
当時の自分は宗教が大嫌いでした。その原因は母親が宗教に熱心だったからです。様々な宗教にのめり込む母親でしたが、母もその周囲も全く良くなることがありませんでした。だから幼いときに宗教をしないと決断をしました。

しかし、何度もクリスチャンに出会い、その中で何度も教会に誘われましたが、一度も教会に行くことはありませんでした。そして東京に転勤になり、そこで出会ったのが「お姉ちゃん」でした。この「お姉ちゃん」はクリスチャンだとみんなに表明しているのに、その立ち振る舞いがあまりにも自然であったので、否定する気持ちになりませんでした。いつも素敵な身なりで、性格もとても良い人でした。そして困っている人を見るとどんな時でも助けるような人でした。また、どんな人に対しても変わらない態度で接していました。悩んでいる時には必ず時間をとって相談にのってくれて、しっかりと話を聞いてくれました。そして最後には「聖書にはこう書いてあるよ」と言って励ましてくれる、そんな人でした。

そんな、いつも変わらない態度で接してくれるお姉ちゃんの行動と一緒に、聖書のみことばが伝わってきました。お姉ちゃんは、「この人が信じているものは何だろう？それを知りたい！」と思ってもらう入り口になれるようにふるまっていました。

このお姉ちゃんの影響を受けて、自分もそうでありたい。また、自分がされたように相手を理解したいと思って接しています。
そしてお姉ちゃんは、自分が神様に何をもらっているのかを知って、それを用いていました。私たちもそのようになりたいですね。しかし、そう思ってもなかなか思い描いたように出来ないのはなぜでしょうか？

自分の心に責めがなければ

私たちは自分には出来ない、自分なんかいなければ・・・と思ったりしてしまいます。祈っても自分の心にとらわれ平安がなくなる時があります。心に責めがあるからです。

しかし、神様は私たちのすべてをご存じです。神様はすべてを回復してくださいます。今おこっている様々な出来事も神様が私たちを元の姿に戻すための過程です。だから問題があっても悲しみで終わることはありません。「私がすべてを回復している」と神様は言ってくださっています。互いに愛する、その愛の中に私も含まれています。その愛の中に神様ご自身もおられます。

置かれた場所で咲く

ノートルダム清心学園理事長であった渡辺和子さんの有名な言葉に「置かれた場所で咲きなさい」という言葉があります。それはラインホルド・ニーバー（アメリカの神学者）の詩から引用された言葉でした。以下でその詩を紹介します。

「神様が植えてくださった場所で咲きなさい」（ラインホルド・ニーバー）
神様があなたを植えてくださった場所で咲きなさい。
諦めるのではなく、むしろ人生のベストを尽くしなさい。
そして花のように咲きなさい。
咲くという事は幸せに生きることです。
あなたの喜びが他の人々を幸せにするのです。
あなたが幸せで、その幸せを笑顔で示せば、他の人々は、
あなたの幸せを知って、彼らもまた幸せになるのです。
神様はあなたを特別な場所にお植えになったのです。
あなたが他の人々とその事を分かち合えばあなたの人柄が輝くでしょう。
私たちが「咲く」と言っているのは、この「輝き」のことなのです。
神様が私を植えてくださった場所で私が咲く時、
私の命は命の庭の美しい花になるのです。
神様が植えてくださった場所で咲きなさい。

さいごに

「咲く」とは「あなたが幸せに生きること」です。それは置かれた環境で「～してくれない」と不足に目を向けてつぶやく人生ではなく、感謝することを選ぶ人生です。私たちは環境の奴隷になるのではなく、与えられた環境下で主人＝イエスキリストが共にいて下さることを信じて歩むのです。神様の計画は変わりませんが、唯一変えられるのは自分なのです。

イエス・キリストは十字架にかかっていのちを捨てる行動を通して私たちに愛を示してくださいました。イエス様が命がけで私たちに愛を授けてくださったのです。私たちはもうその愛を受け取っています。神様がやりなさいと言われることは小さな事だけど、それを実行することに私たちは難しさを覚えます。そんな私たちにイエス様は、「私と一緒にやろう」と言ってくださっています。だから、自分が出来ないと思うことも私たちには出来るのです。

しかし、それには決断が必要になります。決断し行動する事で「愛する」事を実践していきましょう！もういのちのバトンは私たちに渡されているのです。

（要約者：日名 洋）

（2024年9月22日）